

# にっせき ぬくもり通信

<http://www.matsuyama.jrc.or.jp/>

Vol.12  
2008年1月1日



編集・発行／松山赤十字病院

〒790-8524 松山市文京町1番地

TEL089-924-1111 FAX089-922-6892

《基本理念》人道・博愛・奉仕の赤十字精神に基づき、医療を通じて、地域社会に貢献します。

## \* \* \* 年 頭 挨拶 \* \* \*



松山赤十字病院 院長  
渕上 忠彦

明けましておめでとうございます。

新年を迎えるにあたり、現在の医療を取り巻く問題点と当院の今後の取り組みを紹介させていただきます。

今、医療は崩壊への道をまっしぐらに走っています。連日の如く、マスコミで妊婦さんのたらい回し、救急患者さんの受け入れ拒否、医療事故、などが

報じられており、地域住民の皆様は安全・安心な医療が受けられないのではないかと不安感にかき立てられておられることと思います。この原因は1983年に当時の厚生省保険局長の論文「医療費亡国論」による医師過剰時代が到来するとの誤った判断による医学部の定員削減に端を発します。それに加えて、2004年に新医師臨床研修制度が導入され地方での医師不足・偏在が顕著となり、2006年には看護師配置基準の見直され看護師不足が起これ、急性期病院の職員は休息もとれない過重労働を強いられ心身ともに疲弊しています。このままの状態が続けば、どの病院でもマスコミで報じられている事態に陥る危険性を秘めています。さらに、国は財政再建の名の下に過酷なまでの医療費抑制策をとり続け診療報酬のマイナス改訂を続け、多くの病院が赤字経営に落ち込んでいます。病院は営利企業ではありませんので利益を生む必要はないのですが、医療の進歩はめざましく質の高い医療を提供するには最新の高額な医療機器の更新は必須です。また、患者さんに快適な医療環境を提供するには施設の改築、立て替えも必要です。自治体病院へは多額の補助金が投入されており今までは何とかやってこられました。これは税金でまかなわれており近々限界に達するでしょう。皆様は赤十字病院へは日本赤十字社への募金（社資）

が補助金として投入されていると思われるかもしれませんが、それは以前から一切なく赤十字病院は独立採算性の病院です。さらに、国は医療費抑制のために2006年度に医療制度改革関連法を成立させ、2012年度までに慢性期の患者さんが入院する療養型病床を大幅に削減し、介護保険が使える療養病床は廃止されます。行き場のない医療難民、介護難民が大量に発生することは間違いありません。このような状況では、早急に地域の医療機関と住民が手を携えて自衛策を講じなければ地域医療は確実に崩壊します。崩壊を防ぐには限られた医療資源の有効活用しかありません。無駄を省くには、医療機関が役割を分担し連携することによって地域住民の健康を支え合う地域完結型医療を充実させることだと思います。地域完結型医療において最も重要な役割を担うのは地域住民の身近で開業されている「かかりつけ医」です。地域住民の皆様は何でも相談できる「かかりつけ医」を持ち、かかりつけ医が診断に困る、または治療が難しい患者さんは紹介により当院が引き受け、当院の役割である急性期を乗り越えられた患者さんは再び「かかりつけ医」へ戻っていただきます。今、当院ではかかりつけ医へ戻れない患者、すなわち行き場のない患者さんの受け皿作りに取り組んでいます。マスコミで取り上げられました「愛PLANet」構想で、この第1歩は機能の異なる病院間の病床の共同利用です。その詳細は本号に記載されている愛PLANetのウェブサイトでご覧下さい。以上のような地域完結型医療への取り組みが評価されて、当院は松山医療圏では唯一の「地域医療支援病院」名称使用の承認を県知事より受けています。

本年度も地域の皆様に満足していただける良質な医療の提供に職員一同努めますので、当院の方針をご理解の上ご支援をお願いし、年頭の挨拶とさせていただきます。

## 地域医療連携ネットワーク「愛PLANet」のウェブサイト開設

医療から始める地域社会再生計画「愛PLANet」のウェブサイト  
<http://www.ai-planet.jp/>を開設しました。

今後、日本は世界一の超高齢化社会を迎えます。地域社会全体で、現在よりもさらに広い視点に立って、様々な問題を解決して行くことが必要になってきます。地域の皆様の自助努力と、思いやりの心を持って互いに支え合う互助精神を通じた、安心して生活できる地域社会の再生・構築が、今後不可欠なのです。

是非、ウェブサイトをご覧ください、私どもの取り組みにご協力下さい。



## 一般ボランティアの活動状況

医療の分野はますます専門化し、その中で心を通わず医療サービスが望まれております。そのため、当院も、平成18年10月から、日亦職員OB12名(現在15名)で初診受付前において、一般ボランティア活動を開始いたしました。

活動内容は、外来患者様に対するフロントサービス(受診案内相談・受診科案内・車椅子の介助等)の一般的な活動を行っておりますが、今後はOB以外にも広くボランティア活動希望者を募るなどし、多岐にわたってのボランティア活動(生け花・車椅子の整備・巡回図書等)を考えております。



## 療養支援ナースの紹介

私たち療養支援ナースは、「一人ひとりの患者様・ご家族がその人らしく、いきいきとした療養生活を送ることができる」ことを目指し、地域の医療・福祉の諸機関の方々と協力・連携し、患者様・ご家族の望む療養生活が出来るよう、転院や在宅療養への支援をしております。

現在「成育医療領域」「整形外科領域」「循環器領域」の各病棟で、患者様のより身近な場所から活動を開始しています。小児科外来では「生活フォロー外来」を開設しております。

患者様・ご家族の声に耳を傾け、心のこもった療養支援を行っていきたくと思っております。

地域医療連携室に、お気軽にご相談下さい。



## 説明支援ナース、診療アシスタントの紹介

当院では、患者様に安心して検査や処置を受けていただけるよう、専門領域の看護師が検査の準備や手順などについて、ゆっくりと十分な時間をかけ患者様に説明する「説明支援ナース」の配置を致しました。



またこれと同時に、病院内のことに詳しい看護助手を、診療アシスタントとして配置し、看護師と共に患者様のお役に立ちたいと考えています。

平成19年11月から呼吸器センターで活動を開始しました。今後は、循環器センター、胃腸センター、肝胆膵センターへの導入も考えています。

